

アジア3国に飛び込んで ～ハンセン病問題から考える未来～

学生時代、ワークキャンプ（ボランティア活動）を通じて中国のハンセン病問題と出会った3人の若者。その活動に感銘を受け、卒業と同時に各自インド・インドネシア・ベトナムへと飛び込んだ。資金もない、人脈もない、経験もない、現地語もわからないゼロからのスタート。海外を拠点にし、手探りで現地の人たちと日々切磋琢磨すること、かれこれ5年+。様々な体験を重ねる中で彼らは何を学び、どう成長し、そして今何を考え、感じているのか。また、アジア近隣諸国から改めて見つめる母国日本は彼らの目にどう映るのか。講演内容を踏まえ、来場者にも一緒に考え、互いに共有してもらおう参加型の会。26日は音楽家であり長年いじめ・自殺防止活動にも取り組んで来られた高谷秀司氏をお招きし、差別・偏見について考える。



檜山 大輔

1989年生まれ、東京都出身。早稲田大学在学中の2011年にインドのハンセン病コロニーを訪問。大学卒業後一般企業で勤めていたが、2016年に退職し、インドハンセン病コロニーを支援するNPO法人わびねすの専任理事となる。NPO法人わびねすが展開するワークキャンプ、就労支援、教育の3つの事業のうち、主に就労支援事業を担当。マイクロファイナンス事業やきのご栽培事業をハンセン病コロニーで立ち上げ、コロニーの人々の収入向上に尽力している。

高階 まりこ

1987年生まれ、東京都出身。親の仕事で高校まで大半を海外で過ごし、大学進学のため帰国。在学中にハンセン病と出会い衝撃を受け、2010年に初ベトナム。翌年から1年間首都ハノイに滞在し、現地の若者とボランティア団体を設立。日、越、中の若者とワークキャンプを開催。2015年に活動を一旦休止するも、2016年から再びハノイ在住。日系・現地企業での勤務経験を経て、現在は日本語学習アプリを開発するIT企業に所属。フリーランスとしても個別の事業に携わる。



高島 雄太

1988年生まれ、香川県出身。大阪外国語大学に入学し、インドネシア語を専攻。学生時代、ハンセン病と中国での活動に影響を受け、1年間の休学を決断。インドネシアのハンセン病コロニーに滞在し、大学生を中心に現地の人を巻き込み、ワークキャンプ団体を設立。卒業後は現地社員として日系企業で勤める傍ら、地元根付いた活動の展開を推進。現在は公認財団Yayasan Satu Jalan Bersamaの設立を目指し、西ジャワ州にて日々奮闘中。

1月26日(日)スペシャルゲストスピーカー 高谷 秀司氏

日本を代表するギタリスト・和琴奏者。

2016年からは音楽ユニット「神雅氣」を結成し、国内外でコンサートを行う傍ら、教育、人権、環境、平和等をテーマに積極的に社会活動を行う。

NPO再チャレンジ東京では、今年第7回目を迎えた「全国いじめ・自殺防止国民運動」を企画・運営するほか、チャリティーコンサートや全国の小中学校で演奏・道徳授業を行い、いじめ・自殺問題の改善に尽力している。



1/25(土)13:30 開場/14時～16時半 定員40名 (入場無料・先着順定員有)

1/26(日)09:00 開場/9時半～12時 定員70名

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟514 (25日)・センター棟513 (26日)

お申し込みは[こちら](#)から

主催：わびねす 協賛：日本財団